



めたばる

発行

自衛隊目達原駐屯地
〒842-0032 佐賀県神埼郡
吉野ヶ里町立野7-1
TEL.0952-52-2161



巻頭の辞

九州補給処長兼ねて目達原駐屯地司令
陸将補 吉野 俊二



満開の桜の下、敬礼を受ける駐屯地司令

皆様、お変わりありませんか。新型コロナウイルス感染症に関わる非常事態宣言が解除されましたが、目達原駐屯地は基本的な感染症対策を徹底し、3つの密（密閉・密集・密接）を避けるために創意工夫をした教育訓練や各種行事等を行い、部隊練度の維持・向上に努めています。特に南西を取り巻く安全保障環境は例年になく厳しい状況と認識しており、駐屯地に所在する各部隊は緊張感を持ちながら、練成訓練や検閲等、当初に計画した訓練を実行し確実に任務を遂行しています。

また、駐屯地として7月上旬から50数名の新隊員の教育を開始しました。この教育で自衛官として必要な知識と技能を教育するとともに、社会人として必要な躾を身につけさせているところです。目達原を初めて知る隊員も多くおり、不安な気持ちを持つ隊員もいるかもしれません。大切な隊員を預かっているとの我々の責任の自覚と「国を守る」という崇高な職務である自衛官の道を選択しサービスの宣誓を行った隊員に敬意を払い、これからの活躍を支えたいと思います。

佐賀では梅雨入りを迎え、大雨特別警報が発令され、また熊本では豪雨により大きな被害が発生しました。新型コロナウイルスへの対応を踏まえた未知なる災害派遣へ適切に対応するとともに、確実に準備を積み重ね即応します。これからの日々緊張感をもって任務に励みます。目達原駐屯地は引き続き、地域住民の皆様に愛され頼りになる駐屯地と隊員の育成を目指してまいります。

熊本豪雨に伴う災害派遣

7月4日から梅雨前線停滞の影響により、熊本県南部に猛烈な雨が降り、球磨川が氾濫し広範囲で冠水被害や土砂災害が発生しました。

この災害に対し、九州補給処は、緊急要望の補給品を速やかに準備し、7月5日（日）第8師団（北熊本）へ胴付長靴や日用品セツト等、延べ1万6千品目以上の補給及び輸送任務を実施しました。

また、西部方面ヘリコプター隊・第4飛行隊及び空中伝送班は、4日（土）から、南九州一体に対して、ヘリ装備のホイスストによる人命救助活動及び映像伝送による情報収集活動の災害派遣任務に従事しました。



被災地域に向け離陸するUH-60（西部方面ヘリコプター隊）



熊本へ補給品輸送（九州補給処）

新型コロナウイルスに係る長崎港停泊外国船に対する災害派遣

このQRコードの使い方
①お手持ちのスマホで上記バーコードを読み取ります。
②読み取り結果画面で、「目達原駐屯地」をクリック
③目達原駐屯地のホームページを開覧できます。
④過去のめたばるの新聞を全面カラーでご覧になれます。



補給した防護服を着用して活動する隊員（左2名）

九州補給処は、4月28日（火）、新型コロナウイルスに係る第4師団災害派遣（長崎県クルーズ客船集団感染）に対し、感染防護服（タイベックスーツ）300着を補給しました。

本補給業務は緊急事態と認識し、準備・補給・輸送業務を速やかに実施するとともに、CBRN環境（生物や化学兵器等の下での作戦）における支援と捉え、感染防護服にピンホール一つでもあれば任務達成することが出来ないことを念頭に綿密に点検する等、災害派遣部隊の支援任務を完了しました。

駐屯地内における新型コロナウイルス対策

駐屯地は、コロナ禍においても集団で行動する自衛隊の特性を踏まえ感染症対策及び感染拡大防止のために、3密の回避に留意するとともに人と人との距離の確保、マスクの着用、手洗いうがい等の励行等基本的な感染対策の継続を実施しています。



部外者の検温を実施する警衛隊（駐屯地正門）



ビニールシート等を利用した飛沫感染対策（事務室）

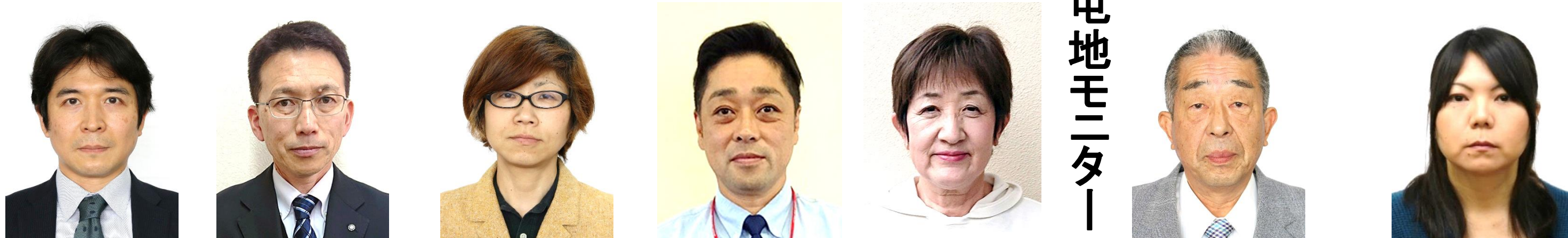
令和2年度防衛・駐屯地モニター

目達原駐屯地は、4月1日付で令和2年度の防衛及び駐屯地モニターを委嘱しました。

委嘱されたモニター7名（防衛2名・駐屯地5名）の方々は、それぞれの任期（防衛2年・駐屯地1年）において、駐屯地の行事等に参加して頂き、ご意見・ご要望などを寄せていただきます。

防衛モニター

駐屯地モニター



堀江 様 吉村 様 名倉 様 原 様 秋田 様 一ノ瀬 様 中村 様
（2年度防衛モニター） （元年度防衛モニター）

九州補給処

（部内）フォークリフト教育



被教育者の真剣な表情

九州補給処補給部は、5月27日（水）から6月5日（金）までの間、フォークリフト教育を担当しました。本教育は、援護業務の環境として定年退職者及び任期満了退職者の希望者に対して行い、年間5回の教育で九州全域の各部隊から延べ約120名が参加しています。

今回教育を担当した早木2尉は「教育する上でスタップと綿密な調整、特に新型コロナウイルス感染予防対策を万全に備えながら教育を実施し、無事全員合格の目標を達成することができました。」と述べました。



自動車保安検査

九州補給処整備部は5月27日（水）から28日（木）までの間、海上自衛隊鹿屋航空基地で自動車保安検査を実施しました。この検査は、民間で言う車検（継続検査）です。

令和2年度、九州補給処整備部武器課車検班では、陸上自衛隊のほか、海上自衛隊、航空自衛隊及び各地方協力本部等45か所、181両の官用車両に対して出張保安検査を実施します。また、この他に目達原駐屯地において年間約120両の保安検査を実施しています。検査にあたり保安検査官は整備不良に起因する交通事故・訓練事故を絶対に防止するため、一件の不具合も見逃さないよう執念をもって検査に望んでいます。受検部隊等におかれては、万全な受検準備はもとより「保安検査官による指摘事項」は、操縦手及び同乗者の命を守り部隊の任務達成を支えるものと捉え、速やかな是正をお願いします。



海自鹿屋航空基地での保安検査



空自高良台分屯基地での保安検査

西部方面後方支援隊

「令和2年度第1回隊練成訓練」

西部方面後方支援隊は、5月27日（水）から5月30日（土）までの間、大矢野原演習場において、令和2年度第1回隊練成訓練を行いました。

本訓練には、西部方面後方支援隊本部をはじめ、第106全般支援大隊、第301通信直接支援中隊、西部方面後方支援隊本部付隊が参加しました。晴天が続く、連日30度を超える厳しい暑さの中、コロナウイルス感染予防のため、マスクを着用し、三密を避け訓練に臨みました。本訓練は、「いかなる脅威下においても、間断なく兵站支援を継続できる強靱な部隊・隊員の育成」を目的として、状況下における支援業務の継続について徹底的に練成するとともに、後支援隊直轄警戒隊の運用について検証を実施しました。訓練を終えた隊朝礼の際に、柳田隊長は、「高い実力、高い士気をもってやり遂げてくれた。自信をもって、今の実力を維持するとともに、更なる高みを目指してもらいたい。」と訓示しました。



偵察先発隊の行動



命令下達



航空攻撃対処

「令和2年度即応予備自衛官招集訓練開始」

第105補給大隊

第105補給大隊は、緊急事態宣言解除に伴い令和2年度即応予備自衛官招集訓練を6月6日（土）から再開しました。

隊員の居住する市町村や企業によっては、出頭できない隊員もいますが多くの即応予備自衛官が早速出頭してくれました。6月6日（土）は、航空部隊との協同訓練に参加し、7日（日）は、特技訓練として野外入浴セットの開設訓練を実施して、特技能力の向上を図りました。



野外入浴セット開設訓練（北熊本駐屯地）



至近距離射撃検定内田即応予備3曹（早岐射場）

航空部隊との協同訓練「第105補給大隊」

第105補給大隊は、6月6日（土）、高遊原分屯地において、西部方面ヘリコプター隊第3飛行隊と空輸補給の協同訓練を実施しました。南西有事や南海トラフ地震等において、ヘリを使用した物資補給が予測されることから、航空部隊との連携要領や補給品の梱包要領、航空用トップネット縛着要領及びフォークリフトを使用した航空機への搭載要領を練成しました。また、本訓練と並行して実施された即応予備自衛官招集訓練では、即応予備自衛官のヘリ搭乗による訓練の魅力化を図り、即応予備自衛官からは「初めてのヘリへの搭乗訓練で大変感動した。」との所見を多く得る等、常即一体の戦力化につながる大変有意義な訓練となりました。



航空科隊員の誘導による補給品の搭載（高遊原分屯地）



補給品を搭載したヘリに搭乗する即応予備自衛官隊員（高遊原分屯地）



訓練参加者



訓練の様子



駐屯地らっぱ競技会受賞者
優勝 尾崎1士（中央）
準優勝 嶋田1士（左） 3位 津曲3曹（右）

第3対戦車ヘリコプター隊

令和2年度佐多AH射撃

第3対戦車ヘリコプター隊は、6月1日(月)から6月5日(金)までの間、鹿児島県大隅半島南端に所在する陸上自衛隊佐多射撃場において、ヘリコプター射撃訓練を実施しました。AH-64D飛行再開後初となる射撃訓練であり、操縦士の洋上固定目標に対するヘリコプター射撃能力並びに整備員の弾薬取扱い及び射撃支援能力の向上を図りました。本訓練間、本松西部方面総監の視察を受察し、本松総監にはAH-64Dに搭乗頂きました。

本松総監離隊の際、「AH-64Dの安全性は私が身をもって確認した。諸官らは自信を持って訓練に励んでもらいたい。」との激励を戴き、隊員一同、士気が向上し、AH-64D再戦力化推進への決意を新たにしました。



総監への機上説明



総監への状況説明



70mmロケット弾射出



TAKE OFF！！



弾薬の搭載

西部方面ヘリコプター隊

第1次・第2次ヘリコプター隊訓練

西部方面ヘリコプター隊は、4月20日(月)から22日(水)までの間、大野原演習場において第1次訓練、5月20日(水)から22日(金)までの間、同じく大野原演習場において第2次訓練を実施しました。

この際、新型コロナウイルス感染症対策として三密「密閉・密集・密接」を回避するため、マスクの常時着用、消毒液の活用、航空機の搭乗や車両移動時の乗車要領



感染予防対策(除菌・換気)



歩哨壕において警戒する隊員



対遊撃戦闘における戦闘指導

の見直し、会議参加者の精選及び分散配置、昼間における常時据上げによる天幕内の換気、仮眠要領に至るまで様々な工夫を行い、いつもとは異なる環境の中、感染予防に最大限留意しつつ訓練を行いました。

我々は厳しい状況にあっても、あらゆる任務に即応し、任務を完了する使命感を常に保持し、運訓一体の下、今後も任務に邁進して参ります。



推進前の命令下達

第4飛行隊

師団総合戦闘力演習

第4飛行隊は、6月4日(木)から17日(水)までの間、令和2年度地域配備師団総合戦闘力演習に参加しました。本演習では、フェーズ1・2に区分され、飛行隊はフェーズ1の場を活用して、第2次飛行隊訓練を十文字原演習場で実施して、防衛作戦における飛行隊の行動を演練し、指揮幕僚活動、部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作に係る練度の向上を図りました。フェーズ2では、師団隷下各部隊のあるべき姿の普及訓練研修及びHMG射撃訓練、各集合訓練等に参加し、多くの成果を得ることが出来ました。



搜索救難訓練(ホイスト)



患者搭載卸下訓練



飛行隊長及び前任上級曹長による各施設指導



対空戦闘訓練



飛行隊指揮所(半地下)

西シ通群本部中隊
映像写真小隊空中伝送班



機内における映像配信の様子



命令下達



車装変換

西部方面管制気象隊は、5月13日（水）から15日（金）までの間、大矢野原演習場において本年度第1回管気隊訓練を実施しました。本訓練では、部隊の基本的行動、特に先発隊の行動について演練し、隊員の基礎動作の徹底を図り、総合戦闘力を最大に発揮するために必要な基礎となる練度を向上させました。

西部方面管制気象隊第1派遣隊



端子盤の点検をする隊員



通信線を縛着する隊員

第321基地通信中隊
西部方面システム通信群第102基地システム通信大隊第321基地通信中隊は、5月13日（水）から5月23日（土）の間、令和2年度佐多射撃場における通信支援を実施しました。本支援では、佐多射撃場における各種射撃に必要な通信組織を構成・維持・運営し、訓練の整齊・円滑な実施に寄与しました。

空中伝送班は、4月から6月にかけて3回の映像伝送訓練（協同部隊西部方面ヘリコプター隊第2飛行隊）を実施し、各種災害における映像伝送能力の練度向上を図りました。第3回訓練は、大分県玖珠・九重地区における大雨土砂災害を想定した映像伝送機2機の交互運用による映像配信要領を演練するとともに、地上受信局を日出生台演習場小岩扇地区に開設することにより、大雨被害発生頻度の高い



離陸前器材外観点検

当該地域における映像伝送が可能であることを確認しました。引き続き、映像伝送能力の向上に努めていきます。



マスクの下は笑顔です。

曹友会
あいさつ運動・クリーン作戦
曹友会は、各月の上旬を基準として、会長以下約8名であいさつ運動を実施中です。新型コロナウイルス感染症防止としてマスク・手袋を付けて行っています。参加した隊員は、「活気のある駐屯地にしたい」との思いで、出勤する隊員に対し、笑顔と大きな声で呼びかけました。
また5月21日（木）、会長以下13名（3分会九処補給部・鳥栖支処・321基通・空伝班）及び4分会（九処整備部）各分会5名・有志1名）で#1クリーン作戦を実施しました。



駐屯地外柵沿いの清掃



曹友会長以下8名によるあいさつ運動

新型コロナウイルス感染症防止のため参加した隊員は間隔を十分に開ける等の処置を講じて一生懸命にゴミを拾い、清掃を実施しました。
今回収集したゴミは、不要不急の外出制限もあつたせいなのか、いつもより量が少なかった気がします。参加した隊員からは、側溝を整備（草刈等）すれば、少しはゴミが減るのではという意見もあつたので、今後のクリーン作戦の資とします。
曹友会活動はコロナ禍により、制限されていますが、早期のイベント再開を願いつつ、引き続き、油断せず「3密」の回避とコロナウイルス感染防止に努めて参ります。



間隔を空けて席を配置



講師の神埼警察署交通課長

交通講話
駐屯地は、4月8日（水）、神埼警察署交通課長 北御門警部による交通講話を受講しました。
講話は、佐賀県・神埼市及び吉野ヶ里町における交通情勢や交差点における事故防止、飲酒運転防止の3点が重視され、特に交通法規の遵守が求められる自衛隊にとって参考になることが多くありました。佐賀県としても交通事故ワースト脱却推進プロジェクトも行われており、駐屯地としても、しっかりと事故防止に取り組んでまいります。

定年退官者・定年退官予定者		九州補給処 調達会計部長 石山 秀一	
▽7月28日	西後支 河原 2 曹	▽8月4日	九 処 松下 2 佐
▽9月2日	整備部 荒木 2 佐		

かささぎのつぶやき
新型コロナウイルスの感染防止のため、新しい生活様式が始まった。テレワークもその一つであるが、妨げとなっているものに「押印による決裁」がある。思い返せば、平成の初めは算盤や電卓で計算しペンで書類や帳簿を作成していた業務も、最近ではシステム化が進み、パソコン上でデータを入力するだけで、簡単に書類や帳簿が作成・印刷され効率化されている。
しかし、押印による決裁は未だ変わっていない。この状況の中、四月に防衛大臣から「防衛省・自衛隊、電子決裁できるものは全部電子決裁にしよう」ということで、市ヶ谷はほぼ全て、それから防衛大学校、装備庁、防衛研究所、陸・海・空・統幕は電子決裁でやることにします。」との会見があつた。
今後、電子決裁が進み、より業務が効率化されることを期待しながら、電子化されない小切手に今日も押印している。